# 2015年ネパール大地震でのランタン谷氷河崩壊被災地の現況と観光地化の進展

## ― 死者不明者約350人のこの地は、被災履歴から、住むべき地ではなかった ―

長岡　正利

南東側から見た、ランタン・リルン頂上

ランタン谷は、1949年に英国人・ティルマンが訪れて「世界で最も美しい谷」と称賛したことで知られています。

「ランタンヒマール」と言われるこの地は、首都カトマンズから近い北方に位置し、ランタン国立公園の一部となっています。

谷沿いには、5000～6000m峰が連なり、最高峰はランタン・リルン

（標高7245m：1961(S36)年に大阪市立大学山岳会の３人が遭難死、1978年に同会が執念の初登頂を。）

演者は、2007年８月（モンスーンの最中）と、今年の春４月に、この地を訪問しました。その16年間を隔てての、驚くべき大変貌（ロッジなどの大増築）と、2015年ネパール大地震での山頂下のランタン村の被災状況及び復興の現況を、200枚程の写真で紹介します。

16年前は深い針葉樹林中に１軒の「ラマホテル」のみだったが、今や、登山道の両側に数軒のロッジが林立して、大賑わい。

注：その名称は、谷奥のキャンジュン・ゴンパ（チベット仏教のお寺）に行くチベット仏教僧がここを宿営地とした故の地名で、「ホテル」ではない。

2007年時点のランタン村と、現在の被災地を、同じ視点から。

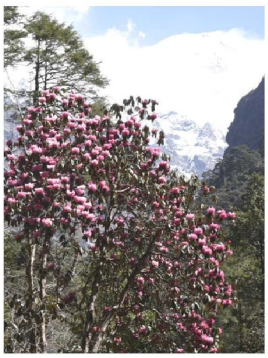
上写真（ﾓﾝｽｰﾝ期の雨天下）をよく見ますと、急斜面に３筋の細流があり、現在（右上写真）では、植生が総て剥ぎ取られて岩壁となりながらも、その３筋の細流位置は、岩壁を刻む溝として見えています。

上述の地震では、山頂直下の懸垂氷河の崩壊掃流・爆風で、ランタン村全域が潰滅したもので、巨大な岩壁の下にあった３階建てロッジが１軒だけ残りました。崩壊の直撃のほか、爆風による家屋倒壊、対岸斜面の樹林地にまで被害が及びました。なお、1970年のドイツの航測地形図からは、死者が多かった被災地域（平坦で住みやすい）には、その頃までは家がなかったことが明瞭です。

**（日本でも、その様な事例（過去の伝承から「住むべき地ではない」地が住家連坦となって、大災害）は随所で。）**

ランタン谷奥に見えてくる
美しいﾋﾏﾗﾔ襞のｶﾞﾝﾁｪﾝﾎﾟ 6387m

谷の南側の山々



飛雪のﾗﾝﾀﾝﾘﾙﾝと満開の石楠花。様々な花色。

神猿、ﾊﾇﾏﾝﾗﾝｸﾞｰﾝも。

日本の春にも見られそうな、山野の花も。順に、エニシダ・ヘビイチゴ・サクラソウ・アヤメ・ネコヤナギの、各仲間（種名不詳）